

1983年9月号

1983年9月5日発行(毎月1回5日発行)

No. 85

あんふあんて

発行人/ 発行所/ あんふあんて出版部
定価/ 100円 振替口座/ あんふあんての会 電話/

交差点

聖橋の上を人々は流れる

月日も流れる 人は立ち止まらない

ふん、ミラボー橋でもないのにさ

「スクランブル」では20才のあの娘

なんて可愛い脚を出し

陽焼けた肌にミニ・ミニ・スカート

ボロ・ボロ・ルックで思案顔

長い髪をさらさらさせて

水道橋まで 追いかけようか

「時」の坂道、駆け下りて

後樂園まで、追いつめて

キャアー、キャアー言わせてみたいけど

はっと気づいたその時にゃ

夕暮れ電車で、「さようなら」

詩

山崎

逐次刊行物

昭 58.9.14 和

国立婦人教育会館
情報図書室



来期に向けて



情報誌に関するアンケートをまとめていくうちに、「みんな受け身だなあ。待つだけだなあ。どうしてあんふあんでしないのかしら？」という苛立ちが頭をもたげてきました。情報誌は今、存続することが難しい状態にあります。スタッフのひとりには「どう続けよう？ 会社でも作るなら嬉しい」と書いてきています。暇だからスタッフをやっているわけではありません。仕事をもち、大事な休みの日曜日を返上して、編集をしています。でも、もし会員の1割が毎月、確実に寄稿してきたら、何も大変なことではありません。チーム、要望を出すだけで、誰も「誌面を作ろう」という気にはなっていないようです。それでも、「情報誌がなくなったらやめる」もしくは「やめはしないが是非ともあつてほしい」と七十五名の人が答えています。「保険が目的だから、なくても平気」とはつきり答えてきたのはひとりだけでした。「情報誌をほとんど読まない」という答えはゼロでした。内容的には、「あまり面白くない」と感

じている人もかなりいるようですが、全体として、「まあまあである」「考えるきっかけになる」「関心がもてる」というところで、まとまっています。情報誌は、あんふあんでの顔と言っても過言ではないと思います。断然、続けていこうではありませんか。それには会員ひとりひとりの力が必要です。「作ってもらう」のではなく「みんなで作る」情報誌にしましょう。このところ、あんふあんでが「保険屋」になつていくのではないかと感じてきていました。しかし、アンケート集計の上では、「保険がなくなったら、やめる」という人は十数名でした。ただアンケートを返送してこない会員の中には、こう答えてくる人が、かなりいるのではないかと思います。代表的なものとして、福生市の伊東さん。私の意見をあげてみます。「私自身、あんふあんでの会員ですし、あんふあんでって、なかなかいいなあ、とも思うのですが、『おもちゃ箱』では保険が目的なせいか、今ひとつ記事を読んでもピンときません。確かにこういう考え方もいいなあと思いつつ、自分の生活との関わりがないような、自分の生活圏とは別な所にあるといったイメージです。こういう思いの会員が結構多いのではないかと思います。たまたま共同保育のグループにはいり、そのきまりで入会した人も多いのです。それはそれで、それぞれの地域であんふあんでしているのです。あんふあんででは事務局を頂点とする組織ではありません。情報誌の意見が身近に感じられないなら、自



分達に関するもの、各地域での経験などをどんなに寄稿してほしいと思います。「優生保護法改悪」に対して、あんふあんで事務局として反対運動を進めていこうと決めたあたりから、ついでにいけないと感じて、やめていく会員が続出しています。けれどもアンケートでは約九十名の人が「今後も続けて考えたい」と答えています。この問題に関しては、先に決めた方針通り、反対運動を推進していこうと思います。勿論、賛成できないければ、個別に行動することはかまいません。乳幼児を持つ会員が増えたせいか、「子育てに関することが少ない」という意見がかなりありました。それに関連して「共同保育について知りたい」という人も多いようです。もうひとつ「夫(男)との関係について」とりあげ方が少ない」というものが全体の半数でした。この辺の記事をもっと取りあげたいと思います。と言っても会員ひとりひとりが寄せられる情報や意見、体験談がなければなりません。「みんなで作るあんふあんで」、「自分でもあんふあんで」だということを忘れずに来期に向いましょう。(小山)

なぜ、いま、山村留学か 4



結果を期待しないということ

港区

夏休み、息子が八坂村から帰ってきた。新宿駅で三カ月ぶりに迎えた子は、思わず声をあげたほど背がのびて、色は真黒。照れながら、「ホラ」帽子を脱いで見れば、クリクリの坊主頭。同じ家の二年生の子とふたり朝、農家の母さんが刈ってくれたという。

「頭が痛くなるほど重かったよ」といって下ろしたリュックからは、ナス、きゅうり、カボチャ、じゃがいも、とうもろこし、山豆、の野菜と、手づくりのジャム、湧き水をつめた水筒が出てきた。

暑い夜で、十一時すぎまで寝られなかったにもかかわらず、帰った翌朝は五時に起きて寝間着とシーツをきちんとたたみ、パン屋さんの開くのを待ってパンと卵を買いに行き、卵焼きとジャムパンの朝食までつくってくれた。その朝からもう、プールで三時間もぶつつづけて泳ぐタフぶりだ。

千駄ヶ谷の友だちの家で遊んで、夜帰る時六本木まで歩くという。私は疲れていたし、

荷物も重いから、バスにしたかったが、「僕なんか、このくらい荷物持って学校へ行くんだよ」と、軽々とかついで歩き出す。どこへ行っても「たくましくなつたわね。見違えたわ」「しっかきりしたわね」。四年生ぐらいに見えるわ。私が会社へ行っている間は、気の向くままに児童館へ行き、マンガをむさぼり読み、おなかをすけば冷凍のピザやグラタンを暖めて食べ、ひとり、ひょうひょうと一日を楽しくていたようだ。バス代は一度もわたさなかったから、どこへでも歩いて行つたのだらう。山村留学の成果は大、と私は大いに気をよくしたのだが、そうばかりではなかった。起床時間は、さすがに六時半を過ぎたことはなかったけれど、三日もしないうちに寝間着や着替えは放り投げ、おもちゃも勉強道具も、出しっ放し。

お手伝いも、初めのうちは、「母さんが、いつも僕に頼むと安心だつたんだ」などと、自慢しながらお皿拭きなどをしてくれたのに、流しへ運ぼうともしない。一銭もお金を持つことのなかった八坂の暮らしの反動か、あれこれと物を買いたがる。久しぶりのことで、こちらも甘やかすし、まわりの人もお小づかいをくれたりするから増長するばかりである。あつという間に十六日間の夏休みが終わって、息子は寂しがる様子も見せず帰っていった。

新宿駅で見送った後、親たちが集まってあれこれ成果を誇り合ったけれど、後で聞くとこころでは、いっしょに暮らす子と合わなくて

泣いて帰るのをいやがった子もいたし、いじめっ子のような事件もあったらしい。有形無形に様々な犠牲を払っての留学だから、親はどうしても成果を期待してしまう。でも、数カ月やそこらで、なにが変わるだろう。一年、二年いたところで、一年から見ればほんのわずかの期間である。卒園生の親たちの報告を読んでみても、都会へ戻ればそれなりに、もどりの生活に戻ってしまうようだ。

息子だつて、いまは、八坂の広大な自然がうれしくてたまらないようにだけれど、厳しい冬を迎えればどうなるかわからない。冬休みのあとには帰りがたがらないかもしれないし、慣れた二年目にはいじめっ子に変身するかもしれない。

息子が帰ったあとの、ぽっかり穴の開いたような寂しさの中で、私は自分にいい聞かせている。

結果を期待しないこと。良いこと、悪いこと、何があつても、とにかく八坂で暮らす、その体験が大切なのだ。いつかこの子の人生になにかの糧になればそれでいい。「教育は、結果も大切だが、なによりも大切なのはプロセスだ」と、会の機関誌「育てる」にある先生が書いていた。そして、この夏、息子を見せに行つた時、八十二歳になる老いた父がいったことを思い出す。十数回も心臓発作をくり返しながら、ボケの片鱗さえ見せない人の言葉である。「人間は生まれて、死ぬ。その間になにをしようとしたかだけだ。人の一生そのものがプロセスなんだよ」

母乳をめぐって その後



母乳の知識を持つ

横浜市

このところ母乳の記事が多いですね。確かに母乳にこしたことはありませんが、どうしても出ないと言つてノイローゼになることはないと思います。なぜ、どういふ点で母乳が良いかという知識を十分持った上で自分の場合はどうするかを判断したら良いのではないのでしょうか。私の場合を報告してみたいと思います。

上の子は大病院で出産。人手不足でマッサージもしてくれずほとんど母乳が出なかったのですが、粉ミルクを与えながら努力を続け一ヶ月後から出るようになりました。でもひどいアトピー性湿疹で、六才の今でも治ってはいません。二番目の子は中規模の産婦人科病院で出産。きめ細かい指導があり十分な母乳が出はじめました。しかし生後五日目に黄

疸が強くなりビリルビン値を下げるための光線療法がとられ、その効果を上げるためまる一日母乳を与えるのをやめました。その後しばらく母乳だけで順調に育っていましたが、二ヶ月過ぎて不足気味になってきたためミルクを足そうとしたところ、少しも飲んでくれませんでした。三ヶ月ほど作っては捨てるという有様でした。体重はわずかに増えず、パーセント値を五ヶ月になった頃、突然首・顔や全身がはれるクインケの浮腫（じんましんの一種）が起きたのです。度々ひどい症状が現れ、原因も解らず不安でいっぱいでした。もしや乳製品のせいでは？と思ひ病院で検査を受けたところ、牛乳と卵白のアレルギーということでした。体質の遺伝だから仕方ない、その時はそう思いました。

ところが、去る五月二十二日の朝日新聞日曜版に「新生児の腸は選択吸収性が不完全なため異種たんぱくを吸収してしまうので、アレルギー体質を受けついだ子に生後間もなく粉ミルクや牛乳を与えると、アレルギーの抗原を吸収して体内に抗体ができてしまう。そういう子に二・三ヶ月母乳を与えた後突然ミルクを与えると、体の中の抗体と反応してショック症状を起こすことがある」という記事がのっていたのです。ショックが治ったあとに抗体が原因のアトピー性湿疹やぜん息が残るので、腸の選択吸収性が完全になるまで三ヶ月は母乳育児が必要とのことでした。さっそく先の病院に問い合わせたところ、光線療法中の二男にミルクを与えてしまったとのこと。私の子の場合、体質上何が何で

も母乳で育てなければいけないケースだったので。病院では選択吸収性についての知識があつたにもかかわらず、「大変まれなことなので」という理由で光線療法中の赤ん坊にはミルクを与えていたのです。その病院はラマーズ法出産の指導もありきめ細かな看護をしてくれる所なのですが、残念です。

もうひとつ、同じ新聞に「母乳の質は授乳中の母親の食べ物に左右されるし、湿疹の原因も親の食生活にある」という助産婦グループの発表ものっていました。私は乳を出そうとして牛乳をガブ飲みしていたのですが、これは逆効果で、むしろ野菜中心の食事が良いのだそうです。もっと早くこのことを知っていたら……

粉ミルクで育つても何のさしさわりもない子もいるかもしれませんが、私の子のようなケースもあるのです。母乳は病院まかせでなく自分で知識をもつことが大切だというのが私の感想です。



おんなたちに自然は解放されたか

新宿区

おんなの体は自然の生物なんだ。この体は自然の営みの中の連続として生きていく。しかも個々の体はそれぞれ違っていて、同じ状況におかれていても感じ方・表われ方は違ってくる。この体が、痛がったり不快がったり信号を発してくる時、体をとりまく環境や構造やしくみは体の言うがままを受け入れるゆとりをもっているだろうか。

おっぱい論争を読んでいて、環境にあわせて生きていかなければならないことの大変さを感じた。石川さんのいう「身上不二」つまり自分の環境に自分の体をあわせることこそ自然の中に生きている人間としての生き方だ。という考えは、なんだか根本が違ふようだ。その人間が、自分の体にあわないものは自然環境にもあわないんじゃないかと考えていく方が、ずっと自然ではないか。そもそも、今社会的力を持つていない人間があまりに生きづらいのは、社会的力を持つていないものが自分のふところ利益に都合のよいように環境を変え、なおかつ変えようとしているからなのだから。

私の母は三人の子を母乳だけで育て、それでもあまつた分を乳の出ない人にもらつてもらつたりいちじくの木を根元にかけたりしたそう。体が「健康」でも母乳の出ない人だっている。男の人だって乳腺炎にかかることもある。そういう個人差を無視して、この現代において、母乳が出ないのはどこか私の体が悪いのだなんて強迫観念を持たされちゃうなんておかしいじゃないか。

病気というのはならない方がおかしいんで、ここが悪いよと体が言っていることなんだから、そうかそうかとコミュニケーションをとる唯一の時間がきたわけだ。食べ物だってそうだし仕事だってそうだし、その時の環境全体を見渡して体にとってよくないものを探していくべきで、ある人にとってはすごく体に良いものでも、ある人にとってはすごく合わないということがあることを、私たちはしっかりとわからなければいけない。

あんまり母乳母乳というのは、どうも寒けがする。「あの子は牛乳で育ったからね」と蔑視されるのは、子どもは母親が育てるもの、それではなくて健康やかに育たないという偏見があるからだ。しかも「その子に一番あった母乳はその子を生んだ親でないと出せない」なんて、本当に「身上不二」の精神をそのまま受け入れてしまうことが、人間の尊厳をどんなに土足でふみにじってしまうことなのか子どもを育てる大人がわからなければならぬ。

子どもはおっぱいだろうとミルクびんだろうと、生命力いっぱい、与えられたものに吸いついていく。母乳が一番完全、一番いいなんてのは画一化であつて、個人差を大切にすることが失われてしまう。個人個人がそれぞれ自分にいいということ、それが全体にとつても普遍的にいいということとは全然違う。「経済的自立から解放されて楽な気持ちになつた」千恵子さんは、経済的に自立してなくても食つていける状態で楽になつたんで、それは千恵子さんの生かされ方。だけど、働かなきゃ食つていけない食わせていけないという

母親が赤ん坊を餓死させてしまった新宿に住んでいると、千恵子さんの生かされ方は普通のものだとどうしても言えない。この生物をどう生かすかどう生かせるかは自分で決めるんで、自分で決めるからにはたくさん道のがあつていいはずだ。

「身上不二」に疑問をもつのは、それがナチ農林大臣のカーリン・アンダーソンの持論である「血と土」の日本版だからだ。ナチスの女性政策は「女は家庭を本分とするべし」につくる。妻であり母であるべきとするナチの無人権思想を受継ぐものは、現代にあつてあらゆる分野で横行する舌をつくしている。この元となるのが当然の自然淘汰説なのだが、病気の弱いのものは自然に淘汰されるという考えは、母乳乳論主義にも表われているのではなからうか。「自然性差」の考えのもと、自然主義の中に人権を土足でふみにじるものがまだいるとしたら、それは母性主義とか母乳主義とかに名を変えているんじゃないだろうか。「自然に産む」というのは、自分自身のからだに性にとつて生殖機能を動かすということ。自分のからだこそが自然なのだと大声で言うてはいないか。



あんふあんてから

あんふあんてへ



半年たって

練馬区

四月号で報告した私達のグループは、現在大人九名子ども十名のメンバーに落ちついたのですが、あんふあんてのふんいきやものの考え方とちよつとちがったメンバーの集まりだということ、末だ親子分離が出来ない状態であるということ、あんふあんて加入は一年保留することに致しました。大人と子ども相方の成長を期待し、なんとかグループを維持して行きたいと思っている毎日です。ところで、あんふあんて事務局支部をつくるという構想はありませんか。近くに支部があればお手伝いに行けると思うのですが。

なぜ学校へ

所沢市

国分 さんの「なぜ、いま山村留学か」を興味深く読んでいます。私は、下二人を幼稚園にやらず共同保育した。そして必然的に、「なぜ学校にやらなければいけないんだらう。間違っている」と考えるようになった。科学が異常に発達し、乗り遅れまいとする政・財界の為に二パーセントのエリートと九十八パーセントの従順な労働者を仕立てあげる、その作業こそが学校教育なのだから。今六年の長男が一年を終えた時、二年に進ませずもう一度一年生をさせたかった。それは長男がクラス中からいじめられていたからで、本人には大きな負担かもしれないが長い目で見れば必ずプラスになるからもう一度、と、夫と二人で毎晩話しあったものだ。これは実現できなかったが、何か手段があったのではと、今でもうしろめたい時がある。二人目の時は、一年保育募集締切り間際、あんふあんて事務局で紹介された人の知人と共同保育を始めた。長男の姿や、人間を型にはめようとする社会の風潮をみて、せめて幼稚園時代くらいはびのびさせたいと思っただけだ。しかし、共同保育を始めると思ったより大変だった。三家族四人という少人数でも意見は分かれた。「男のくせに」「女の子なんだから」と言って育てたくない私と、「女の子らしく育てたい」彼女。子供たちは四六時中けんかし泣きわめく。そのすぐそばに驚きつつ、子供とは本来こうであって今までの私は自分の子を締めつけて来たのではないかと自信を失いかけてたりもした。こうして一

ふりかえって

仙台市

あんふあんての創刊号から八十三号まで、送って下さった方がとうとうフルスピードで読みおえしました。大学を出て新入社員として働き始めたころに、この様な動きをしていたグループだったのかと、改めて見直しています。見覚えのあるイラストや詩に、その当時の閉塞状況がよみがえり、又その反対に、こんな記事のつたのかとそのころの自分の無関心さに気付いたりしています。現在週三回の共同保育とミニコミ紙グループベンベン草での家族談の学習を中心に、週一回の聖書研究や労働者のボランティアなどもしています。数年のうちにちよつとはマシな人になった気がします。

移住報告

栃木県

こんにちは。昨年暮に栃木に移住しました。今のところのんびりしています。長男が今春土地の小学校に入学。就後も受けずに、就健など問題になりようがないほどスムーズに入学。全校生徒八十五名、一年生十九名。こじんまりしたきれいな学校で、もちろん木造。夕方通学路コース五キロ程をジョギングすると、「あっ、山川君のお母さんだ。こんにちは」と子供たちが実際にのびやかにあいさつしてくれました。栃木県内の優良校だそうです。それがなんだと言ってしまうばそれまでですが、私にはうれいのです。子供の数が少ないから教師からよく連絡してもらえ、どこの家のだれベエということが周囲にわかるというのは安心です。カミナリがあれば小雨

年四ヶ月。「なぜ学校に？」という疑問がわいてきたのだ。

本来なら親が集まって得意なことを教え、生活的自立・精神的自立（やがては経済的自立）を身につけてやればいいんだ。今の社会構造の片棒をこれ以上担ぎたくない。子供の個性を殺されるのはごめん。そう思っても手段がないから私立に考えた私に、夫は私立の方が超エリートをめざしているからと反対した。個性を尊重してくれる私立だ。すると私は言ったが、それもやはりエリートだ。三人計月十以上の学費は出せない現実がある。「豊は学校にやらない方がいいな。俺がみょうかなあ」と夫は言い出したが、食育問題もあるし、今まで育児に参加していなくて人にまかせるのは気が進まない。さりとて私だって私のしたいことがある。私なりの生き方を望みたい。結局他にいい知恵もつかばず、二男も兄と同じ学校になった。

さて末っ子。彼は次男とかなり性格の違い人見知りが多い。次男が入学した時点で一年保育に入れようかどうか迷った。私の中にも中途半端な気が起きて共同保育に身を入れられなくなった時期である。もともと早く自分に聞いてみるのだった。「それでも共同保育をやりたいのか？」と。目をそれせず自分に肯定するまで、やはり時間はかかっただろう。「いいなあ」と長男はよく言った。その度私は「ごめんね。潤の時はお母さん共同保育なんて思いつきもしなかったのだから」と答える。幼稚園に通わせることに疑問を持ちさえしない現況に逆らって不倫な親がやってきた共同保育は私にいろいろ教えてくれた。

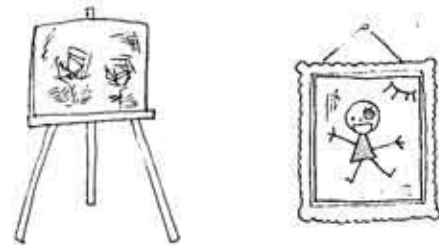
になるまで通りの家で雨やどりさせてもらえし、田んぼのアゼや小川で遊びほうけて平気で荷物を忘れてきても、名前が書いてあれば届けてくれます。せまくるしい高層住宅で息もつまりそうだった生活から解放されて、子供も親もゆったり。くじくくなどに行く子はおらず、お絵かきだの体操教室だの公文だの話を聞いてはグッソリしていた私も、雑音に悩まされることなく「出来たって出来なくなつたって」たつた十九人。のんびりやれよ」という心境になつています。子供もすっかり土地の言葉を覚え、ニコニコゆつたりした顔になつてきました。

子供を内地留学でもさせませんか。現在の日本の学校だから、すべての面で満足がいくなつてはあり得ないし、農山村に住んだからといって公害の問題と無縁であるはずはありませんが、消費文明を批判はしていても自ら生産できない都市生活者だった頃にはわからなかった面がいっぱい出てくるのです。野菜は自給体制です。買い物に行くことが少なくなり、ついでに買ってしまったため、子供の色紙・画用紙なども買わなくなったため、子供は広告の裏側を使ったりそれを真四角に切ったりして遊んでいます。他の母親よりは大切に使用していたつもりですが、それでもたかだか百円と思つてこういうものをすいぶん買っていたように思います。あの頃は子供も広告の紙などでは喜ばせませんでした。けれど、近くにそうしたものを売る店もない、町まで四キロもあるここでは、もう子供も色ガミ色ガミとさわきません。たまに買つてあげようものなら、それこそ大喜びです。

小学校へすんなり通える為の幼稚園。その幼稚園へ通える為に「共同保育」を捉えている人。学校教育・塾だけでは不満でよりエリートをめざす為に「山村留学」を促している人。中にはいるだろう。あえて否定する必要はないと思う。おけいこことやスイミング等から手を出して子供達を栽培しはじめた母親たち。「本当はイヤなのだ」と言つた所で今の社会を支えている一人であることから逃れられないが、だからといってわが身わが子だけを抱え目をつぶってはいさしてはいけない。なぜ学校へやりたくないのか、なぜ共同保育を続けたのか、そしてなぜ子供を産んだのかが一本につながる。教育体制が間違っている子供の為にない学校へ通わせているだけでも苦痛なのに、内容にまでつき合うことはやりきれない。それでも子供達にとっては、たとえ不満でも決まった事なのだからと制帽を買ってくれる親の方がありがたいだろう。「私はあんた達の親」だけを生きてもいい源にしたい。「せん」といふおいたとこで、「もつと大きな重みを放つておいて」と子供たちに指摘されそう。だから、私はやっぱりふん張りしたい。子供達を巻きこんでふん張りしたい。一本につながつたのだから。



あんふあんてから あんふあんてへ



私なりのあんふあんて

金沢市

今日は昨日のつぎの今日でして、総選挙の日です。何となくずるずるべつたりという感じで、選挙の結果は「変わんないなあ」と思っています。(それでもあきすにせつせと投票所へ足を向けています。当然の事です。ま、世の中の事を嘆くまに、自分のまわりをキョロキョロ見渡して、私は私なりにシコシコあんふあんてしています。がんばってね

新潟市

「あんふあんて」七月号いただきました。皆いっしょうけんめいがんばっているのだなと思えました。子供を産んだばかりのころ、この「あんふあんて」がとても心強かったのを覚えています。そして夢中で過した育児と仕事と家事の二年間。今は少しほっとした気が

持て読んでいます。八ページの小山さん、一才十一ヶ月の子がまだおムツがとれないっておっしゃっていますね。うちの子は二才二ヶ月ですが、まだとれていません。「おしっこ教えてね」と言ってもニコニコして「ハイ」というだけ。声だけはりっぱなのですが実行はまだです。本人は悪いと思っているみたいですが、まだ自分で完全には調節できないようです。たまた「しっこしたい」といってオマルへ行ったり排泄できると、とても得意そうに「たいはいはふりちんの状態」父親にまで見せにきます。だから、あまり気にしないでね。私は外出する時はトレパンをはかせ、二時間おきに人前からはばからずおしっこさせています。二才二ヶ月の子にしてそうなのですから、一才一ヶ月の子なんてまだまだですよ。今は夏だからふりちんにして腹がけ一つで遊ばせてみたらどうかしら。がんばってね小山さん。ブリキヤから

川崎市

皆さんお元気ですか。ブリキヤでは開所一周年を過ぎ、会員・会友などというシステムもできて少し会費をとるようになって、私個人で全てをまかなっていた頃よりだいぶ楽になってきました。今年二月と四月にコンサートをやりました(それ以降近所から苦情が出たということできなくならしました)。その他新年の「おしるこ会」「はねつき大会」、三月の「春の紙芝居大会と草モチ作り」、五月の東急「手作りフェア」参加、七月の「七夕祭」と、色々やってきました。最近、おばあちゃんの家で庭

先を借りて、土・日に手作りのもののお店を開いています。(ブリキヤの会員は何か作る人が多いし、何となく私も自身の自立の第一歩としての「お店」をつくるきっかけになればというつもり)。何しろ半分露店という感じなので、夏は十一時頃から七時頃まで、冬は十時頃から四時頃までになりそうです。全体的に天気・自然まかせ。のんきにやっています。ブレンド・コーヒー(百円)もやっています。近所においでの際は寄り下さい。バラソルの下で飲むコーヒーはうまいです。夏は夕涼みやブリキヤでの合宿、秋には自分たちの作ったものを着てのファッションショーも予定しています。それから、ロックバンド「いろ」にメンバーがひとりふえました。ブリキヤの会員です。将来一人ずつふやしてこの人たちが大勢でやれたらと思っています。PRばかりになってしまいました。現在私の頭の中はこんなことで一杯です。ブリキヤの住所



ミニコミ紹介

「この街で育てー自主保育10年の歩みー」

せたがや新しい保育を考える会 この本の編集スタッフの矢野さんは、あんふあんてのスタッフをやっていた時から、「伝える」ということ、「つかんだこと」を次の世代へ手渡す」ということをライフワークとしてとらえていました。あんふあんてがモタモタしているから(いい面も悪い面もあるけど)彼女は自分の現在の活動の中で、それを実行しかし、現在の活動といっても、それはまさに「あんふあんて」とビタッと重なっている。彼女は視点を「せたがや」という地域に絞りこんだわけだから、この本は「あんふあんて」の本といってもよいのです。

特に「第七章 これから自主保育を始めるあなたへ」のところは、是非新しい人には読んでほしいもの。グループの人は自分のところの地域をとらえ返すにはピッタリですよ。長く会員やっている人、10年間という時代の流れを振り返るのに参考になるのでは。おおよそこの一冊で、自主保育(「預け合い」「相互託児」「共同保育」言葉はさまざまでも大体似たようなものよ)のことは把握できるのではないかしら。心強い一冊を是非お読みください。

一部 千二百円(送料は別) 電話かハガキで申込み本と一緒に振込用紙を郵送します。問い合わせ先並びに申し込み先 矢野

情報コーナー

☆女たちの映画祭

デンマークの女たちが共同製作した、女が女の視点から撮った女と男の物語、「女ならやってみな」を上映します。

日時・9月17日(土) 10時・14時

場所・武蔵野文化センター(東武東上線志木駅南口) 0484(72) 7236

前売・400円(当日券500円)

託児・予約制(おやつ代50円)

連絡先・宮

安達 橋

(夜は10時まで)

主催・むさしの「女たちの映画祭」実行委

☆バッグの注文製作工房「砂オリーブ」

丁寧な仕立てであたたかだけのオリジナルバッグを創ります。店内では、皮革素材を中心にバッグや小物類を販売しています。気軽に

見に来てください。

☆共同保育を語り合うつどい

「幼児になかまとゆたかな遊びを」そして、親も育ち合いたい」をテーマに語り合います。活動報告は「たけのこ」(昭島)「ありんこ」(町田)他。参加は自由ですが、保育希望者受け付けは9月10日まで。

日時・9月17日(土) 1時~4時
場所・東京都立川社会教育会館

☆フェミニズムの情報交換ネットワーク

内外のフェミニストと出合いたい人、運動の手がかりとなる資料がほしい人、国を超えた女たちの情報交換ネットワーク・TWINを一緒に作りませんか。どの団体にも属さない新しい独立した組織です。ご連絡下さい。

連絡先・東京都新宿区若葉1の19 高橋2F TWIN

☆あれから60年コンサート

今から六十年前の一九二三年九月一日、関東大震災が起きたのです。「大地震」と「防災」ばかり叫ばれていますが、(かく言う私もその一人で、続けて小さな地震があった時、あわててリュックに詰め直したりしたのです)忘れてはならないのはデマによって虐殺された多くの朝鮮人たちのこと。さらに御存知のように伊藤野枝や大杉栄も殺されています。今また、もし大震災が起きたら、へんなデマが流されてへんなコトが起きないとも限らないと思いませんか。何のために自衛隊が防災訓練に加わっているのでしょうか。

9月14日(水) 6時~22時(前千八百円)

一ツ橋ホール(日本教育会館)へ地下

鉄神保町駅又は竹橋駅へ

連絡先

※他にも9月11日(日)と18日(日)「大地の慟哭」という映画や講演・芝居・コンサートという集会があります。



事務局から

●多摩川グループ83年度後半の代表者は松浦さんから鈴木さんに変更しました。
住所は
TEL



スケジュールメモ

9月11日(日) 出産アンケート会議
18日(日) 10月号編集作業会議
25日(日) 10月号編集作業会議
10月2日(日) 11月号企画会議
3日(月) 10月号校正
7日(金) 10月号発送

スタッフから

○母乳競争がさかんだけれど、人それぞれ事情がちがうのだし、ミルクだって母乳だっていいじゃないのという気がする。私など乳首の形が悪くて直接赤ん坊が吸うことができない

かったため、毎度手でしほっていた。でも、真夜中にお腹をすかせて泣く子を前に一時間かけてお乳をしほるしんどさ。途中からミルクにしたけれど、あの頃の私と赤ん坊にとっては、ミルクを選んだことはまちがいでなかったと思う。(川崎)

○小学6年の夏は塾通いでお忙しらしい。学校や地区の行事の参加がぐっと少なくなる。「隣のクラスでは受験しないのが四・五人っていうわよ」そりゃあこの中学は評判悪いから気持ちいいわからねいわけではないけれど、ハッキリ言って「自分だけ」という考え方はキタナイ。地区の青少年委員をしていて自分の子を私立に入れるなんて、立てまえてホッネの使い分けのうまい日本人らしいよね。まったく。ちなみに我が息子は、今日は一

日、自由研究とやらの忍者屋敷の工作づくりに励んでおります。ノビ・ノビノ(古知)
○ここ数年になく猛暑でした。それでもしっかりと夏太りして、私は何をしてもやせられないと再確認。セールスマンに騙されて十数万のクスリを買ったり、漢方を飲んだり、寝る前に体操をしたり...等々。すべて無駄でした。それでも、どうしてもこれ以上太りたくないという追詰められた気持ちから、テニスクールに通うことにしました。はてさて効果はいかに？(小山)

○新しいスタッフが入らないので、ますますもって人手不足のあんふぁんてです。先月号を編集したと思って安心してたら、今月号お声がかかりかりだされました。誰か月一回でもいいから手伝ってもらえないでしょうか。とても楽しいよ、編集より雑談が。(砂田)

★入会申し込みは切手四百円分同封し、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。宛名は表紙上段に記載。

★参加費は一ヶ月四百円。なるべく六ヶ月以上まとめて郵便局で。振替口座は表紙上段に。特に未納の方は至急払い込みをノ休会、退会も必ず連絡を。

★事務局の電話受付は原則として月々金曜の二・四時ですので御協力を。